

## C O N T E N T S

〈特集〉

## まちづくりにおける景観アプローチ

## 巻頭

- 『景観は国民の富の蓄積』 東京工業大学 名誉教授 中村 良夫 ..... 2

## 論文

- 『日本人の鄙意識と近代日本の都市景観』 東京大学 教授 篠原 修 ..... 4
- 『景観形成とまちづくりの仕組み』 東京大学 教授 大西 隆 ..... 10
- 『都市景観をめぐる議論と課題』 東京工業大学 教授 斎藤 潮 ..... 17
- 『景観条例の運用実態からみた  
景観形成および景観法の課題』 新潟大学 助教授 岡崎 篤行 ..... 25
- 参考資料：景観法の概要 日本政策投資銀行 地域政策研究センター ..... 30
- 『「理想とする景観」をつくる  
～インデックスを利用した都市景観事例研究～』 日本政策投資銀行 地域政策研究センター  
副主任研究員 小杉 雅之 ..... 32
- 日本の美しいまちなみ  
～都市景観大賞受賞地区並びに重要伝統的建造物群保存地区～
- 『先進事例分析からみた景観整備による地域振興』 日本政策投資銀行 地域企画部  
調査役 大西 達也 ..... 40

## 事例研究

- 『クリエイティブ・シティへ向けて  
～横浜の景観と歴史を活かした都市づくりの可能性～』 関東学院大学 助教授 鈴木 伸治 ..... 45
- 『金沢の景観づくりを考える  
～行政主導から住民主導の景観づくりへ～』 日本政策投資銀行 北陸支店  
調査役 西山 健介 ..... 49

## レポート

- 『都市再開発と景観  
～主として歴史的建造物の保全に対する余剰容積の活用について～』 日本政策投資銀行 地域政策研究センター  
主任研究員 野口 秀行 ..... 54

## 連載

- 〈大学附属地域研究センター紹介〉  
「広島大学大学院社会科学研究所附属  
地域経済システム研究センター」 ..... 58



# 景観は国民の富の蓄積

東京工業大学 名誉教授 中村 良夫

## 今、なぜ景観か

明治以降、景観の話題が盛り上がったことが過去に何回かありました。まず、明治27年に地理学者である志賀重昂しがしげたかが書いた『日本風景論』(岩波文庫)があります。ナショナリズムを背景に、日本の自然がいかに美しいかが書かれ、ベストセラーになりました。これは、大正時代の国立公園法につながります。第二は、日露戦争が終わった直後で、英国の田園都市に影響された時代です。いよいよ一等国になり、国造りを担う官僚などが中心となって、「だれが見ても尊敬できるような日本にしようではないか」と英国の田園都市を勉強したのです。『田園都市と日本人』(講談社)という本になったのですが、日本にも江戸や京都の町のような模範的な田園都市が昔からある、それを思い出せばいいのだという結論に至りました。これは、後の田園調布(東京)や芦屋(神戸)などの理想郷づくりに影響しました。さらに、大正デモクラシーの影響を受けた関東大震災後の帝都復興の時期にも、例えば隅田川に美しい橋をかけよう、美しい都市をつくろうという動きが盛り上がりました。明治神宮の森、原宿の表参道などもそうです。しかし、大正時代から昭和初期の美しい都市づくりへの動きは、やがて軍事色が強くなり、それどころではないということで消え去りました。戦後は、高度成長に一生懸命で、そこまでなかなかいきませんでした。

ここにきて、ようやく景観法ということになりました。今の日本は高度成長時代のような経済的パワーに陰りが見え始めました。19世紀末の英国の田園都市も経済のピークを過ぎ、ドイツやアメリカなどの国々に強力に追い上げられた時期でした。英国は経済成長の陰りの中、文化の威光という新しい国力の考えに目ざめたと思うのです。文化は国の活気を支えるでしょう。日本においても、景観法がようやくできたというのは、やはりそういう国勢のおもむくところと関係があり、これからの日本は文化の力で生きないと指導力を保てないということが無意識的にだんだんわかってきたからだと思います。

## 景観は都市型文化産業の整備基盤

現代のような情報化社会では、文化的な価値を売る都市型サービス産業が中核を占めるようになります。町の雰囲気や生活文化を楽しんでもらって、それが経済の活力に結びつくというのが都市型文化観光なのですし、町のレストラン、ショッピングも実にファッション性が高く、これらは、文化的な価値を売る産業だと言えるのです。街が魅力的でないと、都市型文化産業も育たない。景観というのは、都市型文化産業の基盤整備と考え

たら、非常にわかりやすいと思います。一方、先端的な知識サービスに従事している高い教育水準の技術者や研究者やその家族は、自分たちの人生に対する理想像が高く、ハイレベルの都市に住みたいと思っています。魅力的な都市でないと住みたくない。情報化社会では、産業誘致よりも人間誘致が大事であり、そのためには魅力的な都市でないといけないのです。

## 景観は国民の富の集積

日本の都市において国民の富はどこに蓄積されたのか、という疑問を最近よく持つようになりました。私は経済の専門家ではないのでよくわかりませんが、昔の日本人は、富の蓄積のために山林投資を行いました。子供、孫の時代に大きな木になり、どんどん財産がふえていくような長期的な財産運用だった。なおかつ、それで山地が安定していた。都市で財産を蓄積し、超長期的に価値をヘッジするというのはどういうことなのでしょう。日本の都市の町並みがお粗末だとよく言われます。考えてみると使い捨ての町をつくってきたのではないのでしょうか。今年で戦後60年になりますが、大体3回ぐらい、町並みが建てかわっています。日本の町並みや高架橋はいわば仮設構造物の寄せ集めになってしまいました。百年くらい保たないと、豊かな資産にはならないのではないかと思います。

以前、鉄鋼と石炭のフランス・ロレーヌ地方のメス(METZ)という町に寄ったことがあります。都心部は中世からの寺院、市役所、劇場もあり、大変立派なのです。都市が鉱工業で得た富を文化の形で集積した例です。京都、倉敷もそうです。産業で得た国民の富を文化に蓄積することにより、そこから美しい景観が生まれてくるのです。

日本というのは高度成長時代以降、お金をもうけるのはうまかったけれども、その富の使い方、貯め方をあまり真剣に考えなかったのではないかと思います。例えば、大正デモクラシーの果実といえる表参道は、立派な道路で歩道が広い、電柱がない、並木があるという、それだけなのですが、そこに文化が結晶してきています。こういった例は戦前の話で、戦後は経済、経済と言っているけれども、本当に国民の長期的な資産蓄積を念頭に置いて都市を運営してきたのかどうか疑問なしとしません。景観を長期的な国民の富の蓄積と全く関係なく、ただ電柱を地下に入れることばかり考えてもお金がかかるという議論になる。景観を国富の蓄積の指標と考えれば、景観プロジェクトの問題は、将来の日本国民の生活、運命を左右するほど大切な基盤投資として納得いくのではないのでしょうか。